

日常生活圏域高齢者ニーズ調査について (大分県臼杵市)

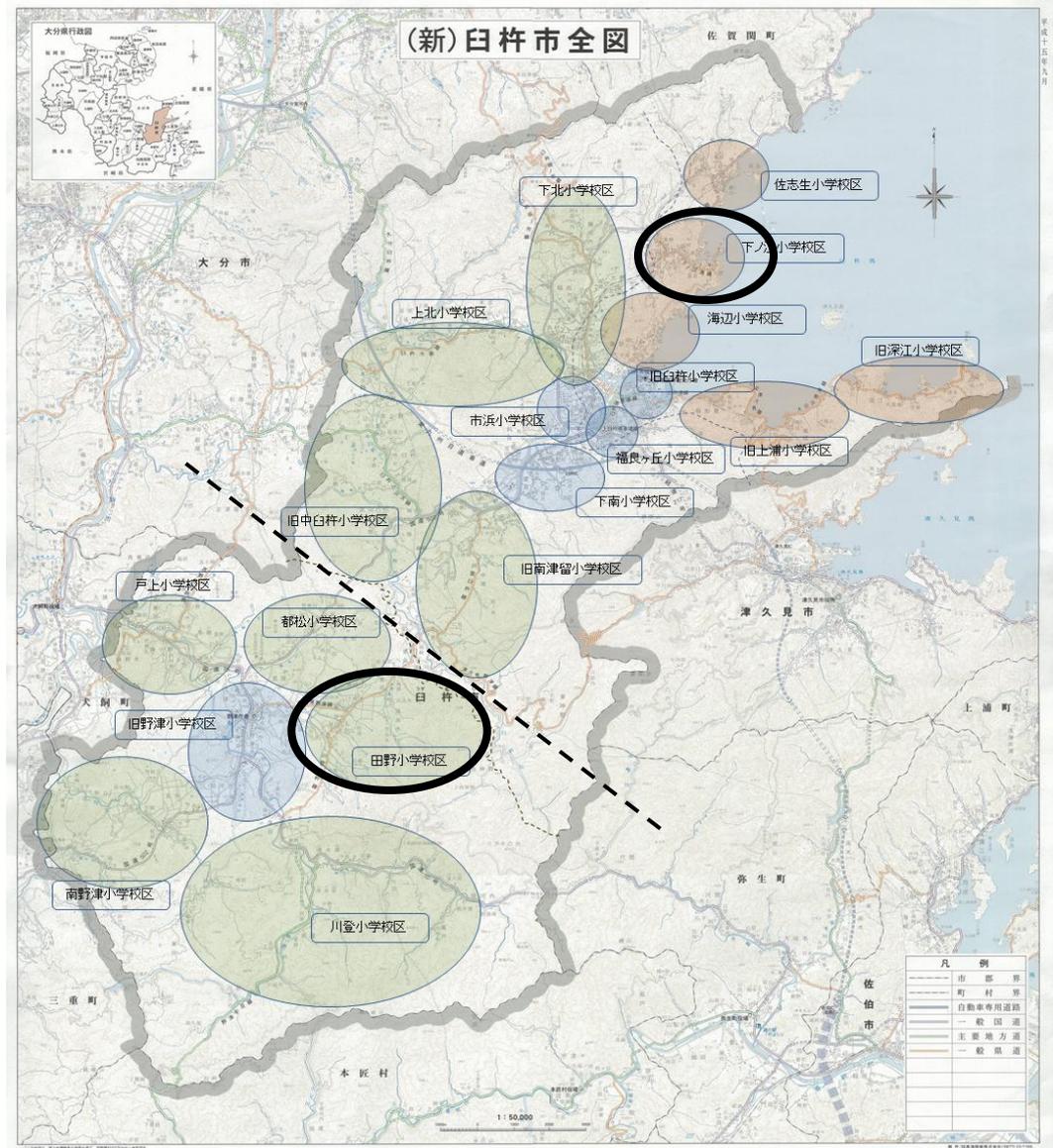


〔 大分県臼杵市 平成22年6月24日 〕

※ 本報告は、財団法人長寿社会開発センターが平成22年3月にとりまとめた報告書の内容を調査が行われた臼杵市から見て、とりまとめたものである。

臼杵市の概要

- ・ 臼杵市は、大分県の東南部、大分市の南側に位置する城下町。市の東は、豊後水道に面した臼杵湾に臨み、内陸部には水田や畑も多くあり、海・里・山の幸に恵まれたまちである。
- ・ 市の面積は291平方キロメートル。人口は41,415人（2010年4月1日現在）。2000年4.54万人、2005年4.38万人と減少傾向にある。
- ・ 平成17年1月に、旧臼杵市と旧野津町が合併。高齢化率は31%を超え、全国平均を大きく上回っている。
- ・ 小学校区は統合前で20区あったが、現時点では15区。中学校は6区。今後も小学校の統廃合の可能性はあるが、臼杵市では、旧小学校区が地域の様々な活動の圏域になっている。
- ・ 今回選定した地区は、旧臼杵市の下ノ江地区と旧野津町の田野地区。



日常生活圏域高齢者ニーズ調査の実施方法（臼杵市）

（調査の対象）

- ・ 臼杵市では、平成21年度から地域コミュニティ再生の取組みを行っており、市内でも地域でまとまって先進的な取組みを行っていた「下ノ江地区」と「田野地区」を調査対象地区とした。
- ・ 調査対象者は、65歳以上で、要介護認定を受けていない者および要支援1から要介護2までの者の全数を対象とした。

（調査票の発送・回収）

- ・ 調査票発送は、基本的に、調査票の返送用封筒を導入し、郵送による回収を行った。返送先は臼杵市役所とし、到着後、調査票以外の物（手紙等）が同封されていないか確認した。
- ・ 調査票の未返送者に対しては、地域の区長、民生児童委員の他、下ノ江地区では「福祉委員」、田野地区では「健康づくり推進員」にも協力をしてもらった。（調査票送付前に説明会を開催し、地域で協力の呼びかけを行ってもらった。未回収者には訪問により督促。）
- ・ 要支援及び要介護者については、地域包括担当介護支援専門員が、直接、訪問・聞き取りを行った。

※ 臼杵市では、平成22年1月から「安心生活お守りキット」という高齢者などの見守りのためのキットを配布しはじめており、その普及のために、区長、民生児童委員に協力を求めていることもあり、理解が得られやすかったかもしれない。



〔 調査の概要 〕

○ 調査の回収率は92.7%と非常に高かった。

○ 回収できなかった者の理由をみると、一般高齢者51人のうち、11人が入院中、9人が調査拒否、2人が死亡、1人が市外在住、1人がその他となっている。また、要介護認定者19人のうち、12人が入院中、2人が死亡、1人が調査拒否、1人が市外在住となっている。入院や死亡による未回収を除くと、95.8%が調査に協力してくれたことになる。

調査対象者数

地区名	総数	一般高齢者 (特定高齢者含む)	
		要介護・要支援 認定者	
合計	963	816	147
下ノ江地区	500	418	82
田野地区	463	398	65

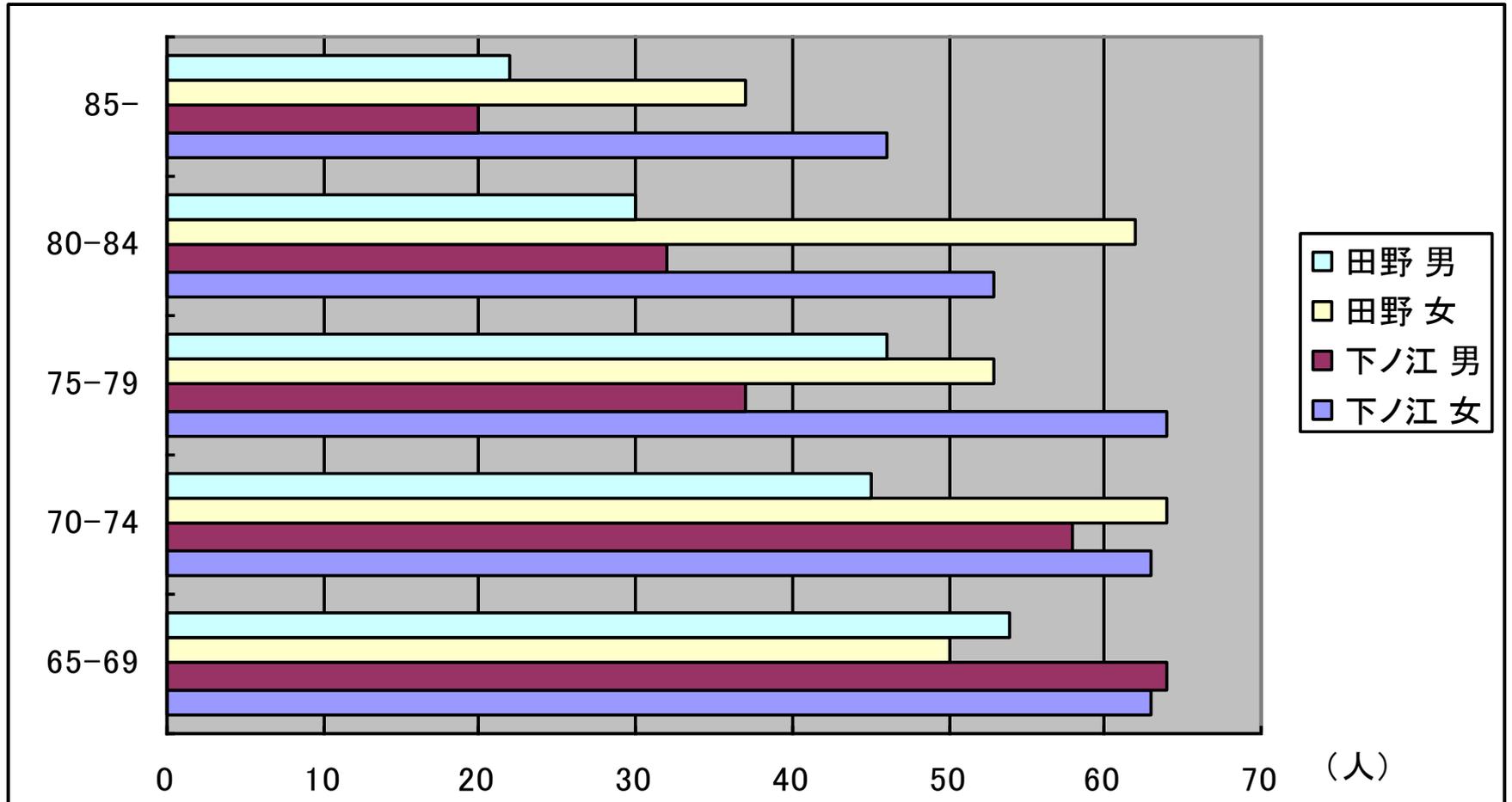
回収結果

地区名	調査 対象者数	一般高齢者 (特定高齢者 含む)						要介護・ 要支援 認定者	
		回収		回収率 (%)		回収		回収率 (%)	
		回収	回収率 (%)	回収	回収率 (%)	回収	回収率 (%)		
合計	963	893	92.7	816	765	93.8	147	128	87.1
下ノ江地区	500	458	91.6	418	389	93.1	82	69	84.1
田野地区	463	435	94.0	398	376	94.5	65	59	90.8

(年齢構成)

○ 調査対象者の年齢構成は、以下のとおり。

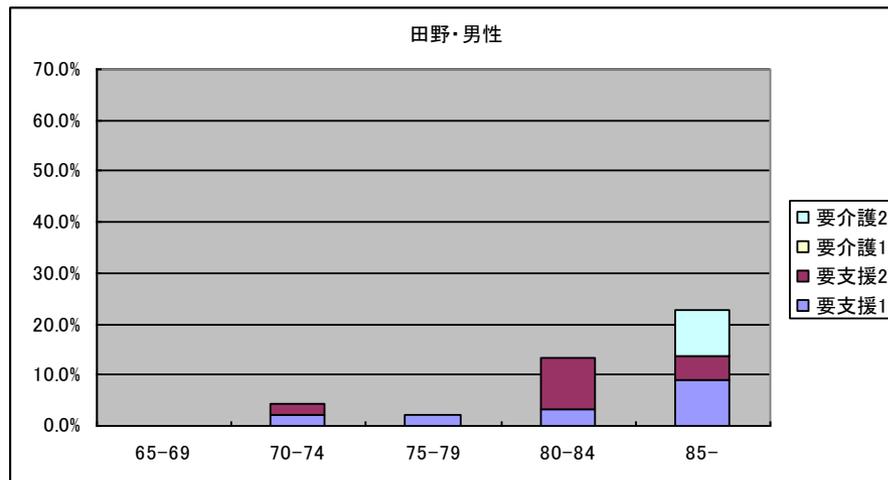
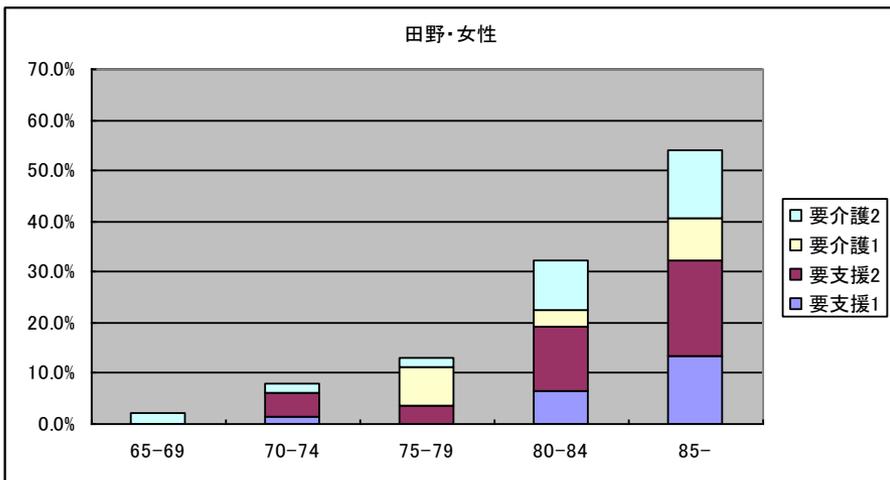
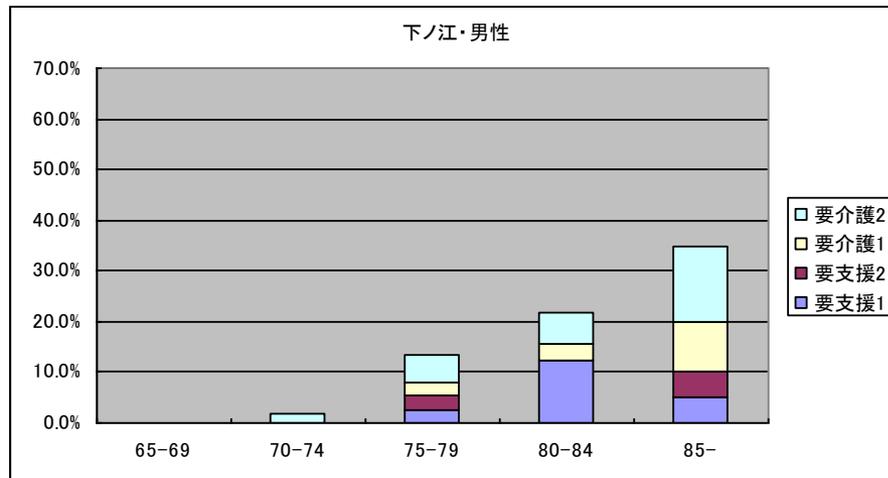
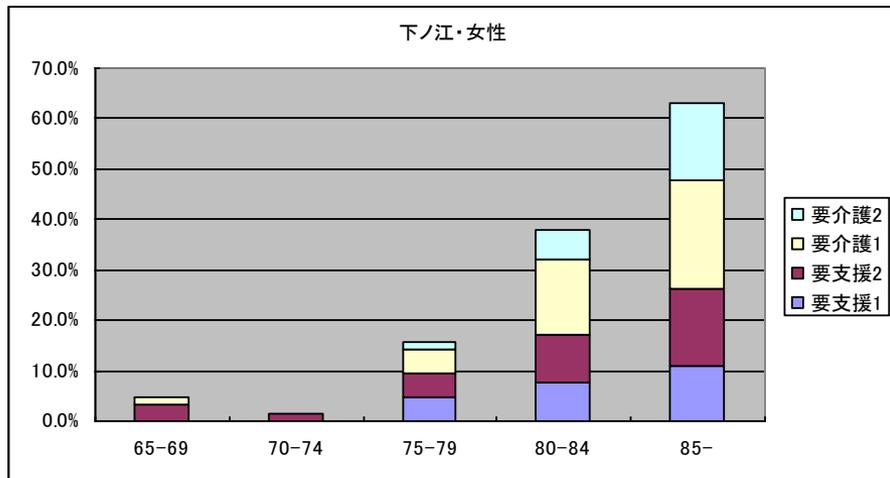
○ 平均年齢をみると、下ノ江の男性は74.9歳、女性は77.0歳。田野の男性は75.7歳、女性は77.2歳となっており、高齢者集団の中でも高年齢化が進んでいる。（参考：平成21年10月1日推計人口による65歳以上の者の平均年齢：男性74.5歳、女性76.4歳）



(要介護度)

○ 要介護度の状況は、以下のとおり。

○ 男女の比較でみると、女性の要介護度が高くなっている。男性については、田野地区の要介護度がかなり低くなっている。



〔 調査結果を用いた分析例 〕

(分析の視点)

○ 臼杵市という小さい町でも、要介護度を見ても地域差があり、それがどのような要因によるものなのかを探るため、今回の調査で得られた様々な情報を基に、「男女別」、「地区別」に集計を行うことにより分析を行った。

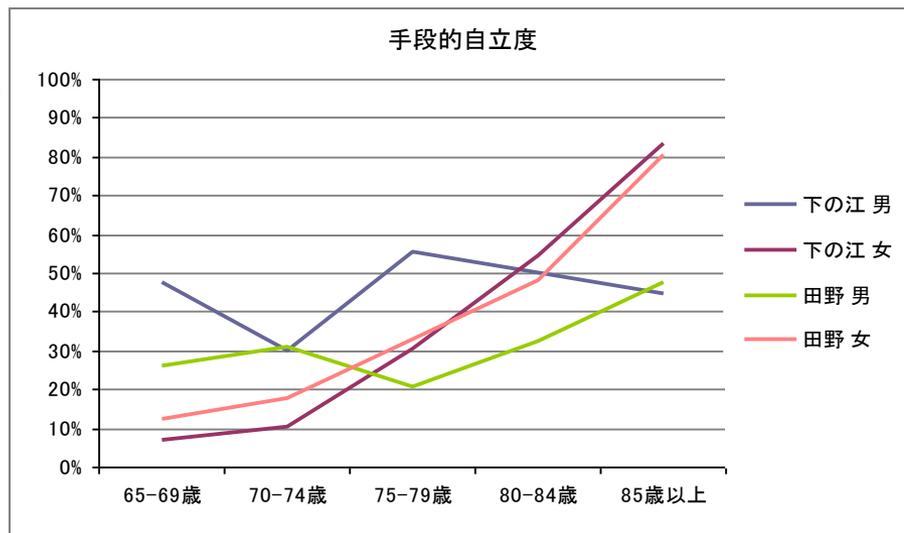
〔 分析① 生活機能低下者割合 〕

- 「手段的自立度」は、女性は年齢とともに生活機能の低下が顕著に見られるが、男性は見られない。
- 妙高市、琴浦町と比べても男性の生活機能低下者（総合評価）の割合が高くなっており、できるのにやっていないために「手段的自立度」が低下したり、外との関係をもつことが少なくて「社会的役割」が低くなったりすることで、比較的若くても男性で生活機能が低下している結果がでている可能性がある。

→ 男性に対する地域活動参加に対する呼びかけの必要性

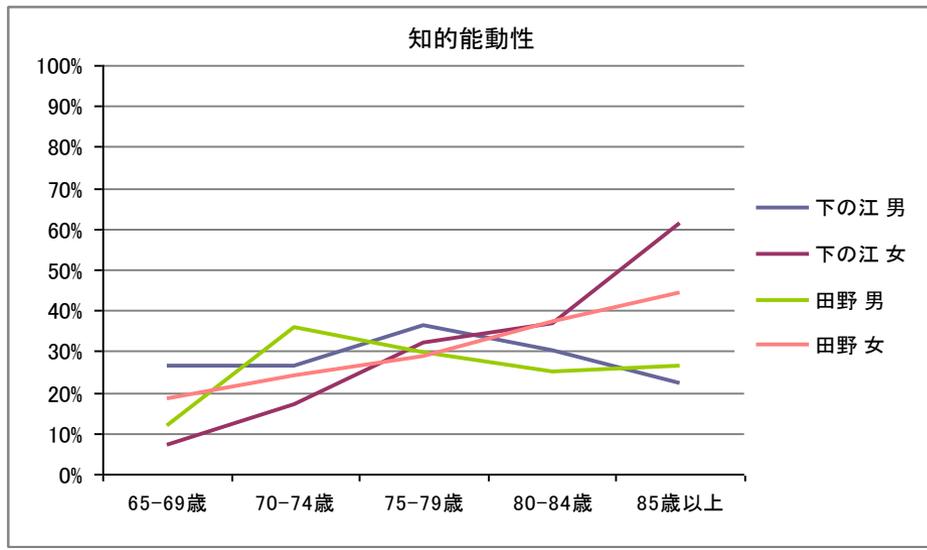
(1) 手段的自立度（以下の5項目のうち3つ以下）

- (1) バスや電車で1人で外出していますか。
- (2) 日用品の買物をしていますか。
- (3) 自分で食事の用意をしていますか。
- (4) 請求書の支払いをしていますか。
- (5) 預貯金の出し入れをしていますか。



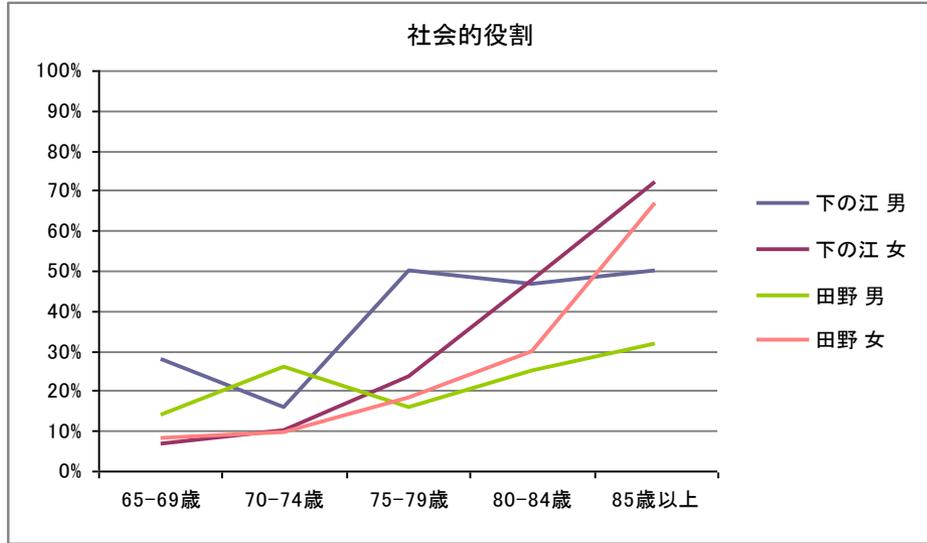
(2) 知的能動性（以下の4項目のうち2つ以下）

- 年金などの書類を書いていますか。
- 新聞を読んでいますか。
- 本や雑誌を読んでいますか。
- 健康についての記事や番組に関心がありますか。



(3) 社会的役割（以下の4項目のうち2つ以下）

- 友人の家を訪ねていますか。
- 家族や友人の相談にのっていますか。
- 病人を見舞うことをしていますか。
- 若い人に自分から話しかけることがありますか。



※ 下ノ江地区の男性で、75歳を境に急激に低下が見られる

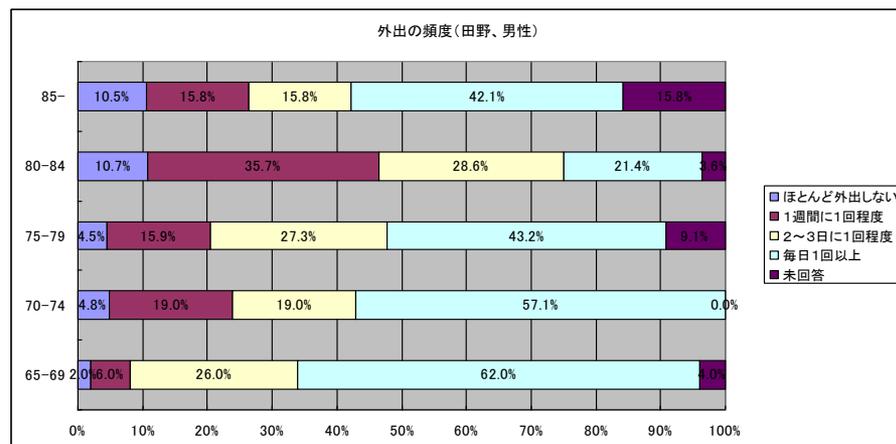
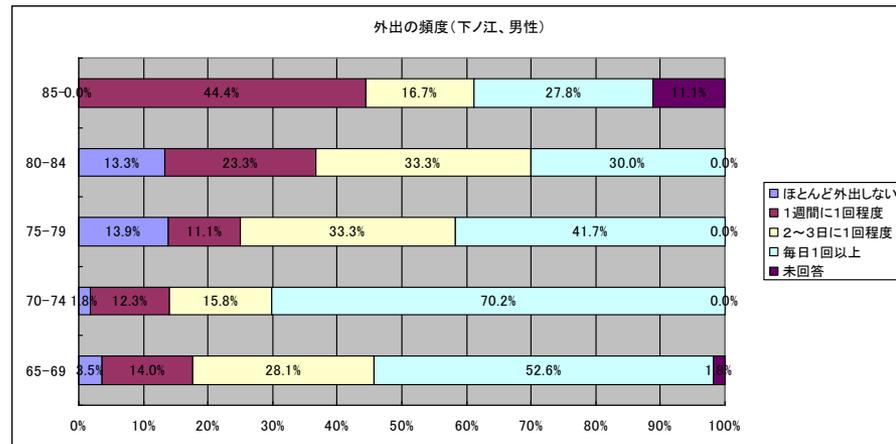
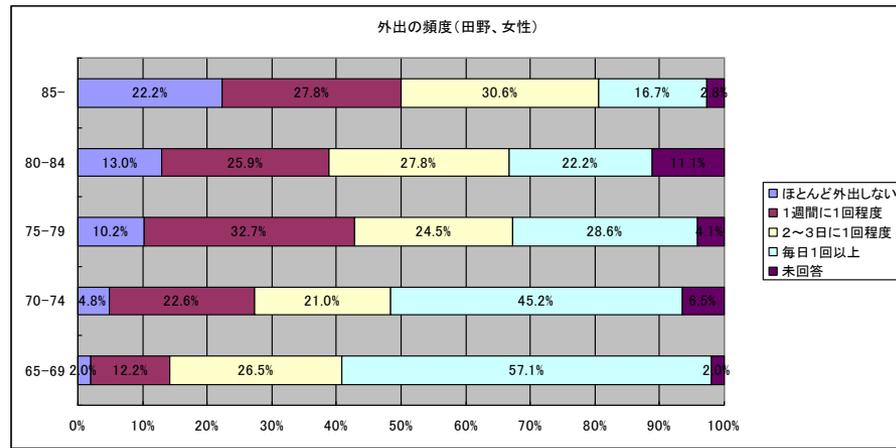
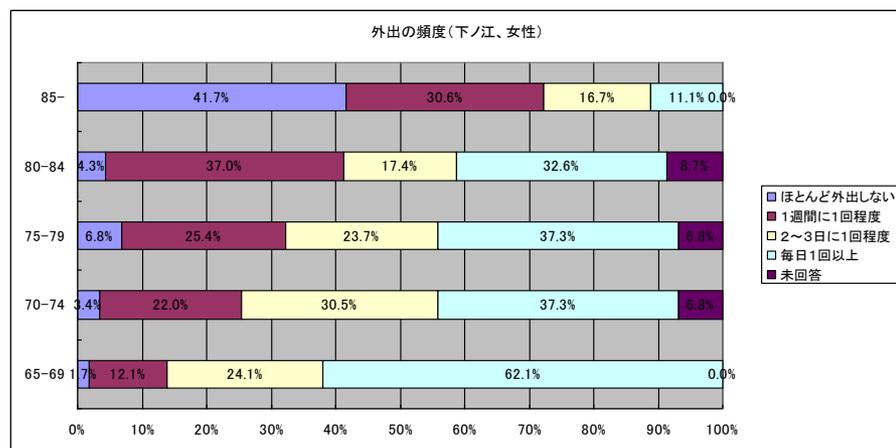
〔 分析② 外出の頻度 〕

○ 臼杵市の外出の頻度は、豪雪地域の妙高市に比べると高いものの、琴浦町に比べるとやや低くなっており、改善の余地が見られる。

○ 外出頻度は年齢とともに頻度が落ちる傾向にあるが、その傾向は女性の方が顕著に見られる。

○ 要介護度の低い田野地区の男性は、85歳以上でも比較的多くの人が出かけている。

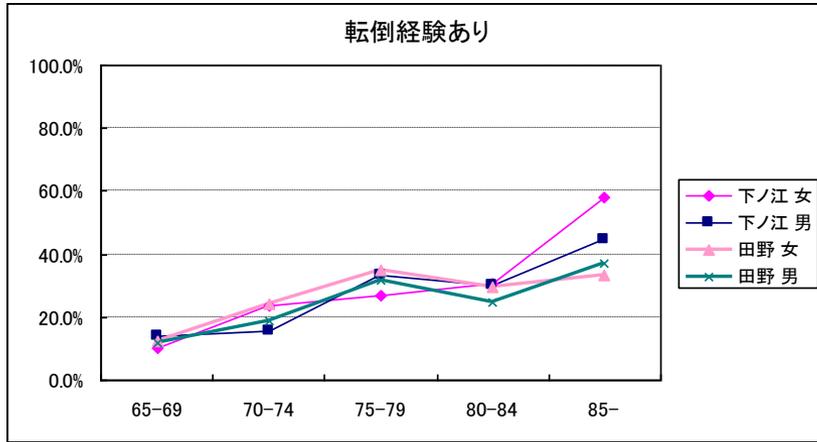
○ 今後ますます高齢化が進む中で、家に閉じこもりがちになる人を地域活動に参加できるように促すような取組みが重要になる。



〔 分析③ 転倒リスク要因保有者割合 〕

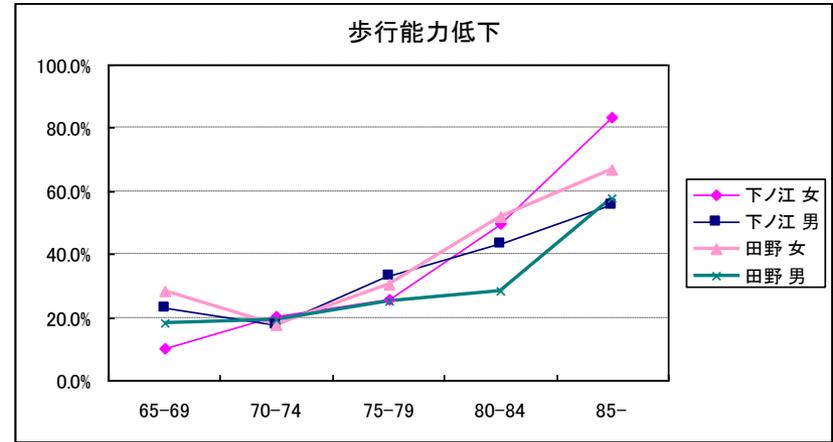
(1) 転倒経験あり

- ・この1年間に転んだことがありますか（はい）



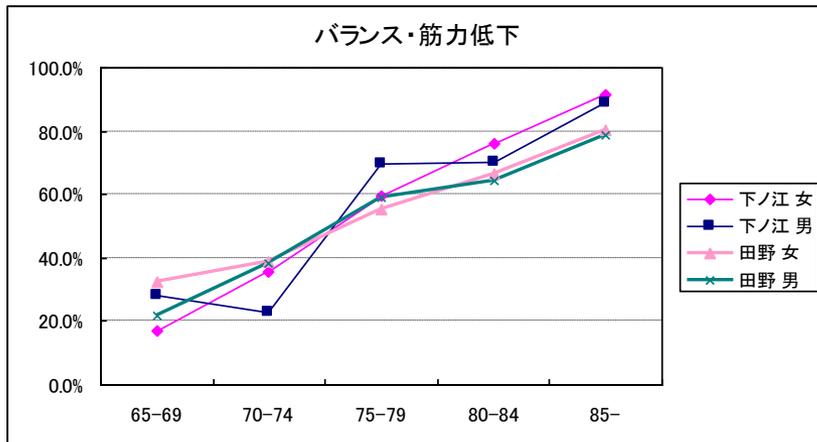
(2) 歩行能力低下

- ・横断歩道を青信号の間に渡りきりますか
- ・15分位続けて歩いていますか（どちらかが、いいえ）



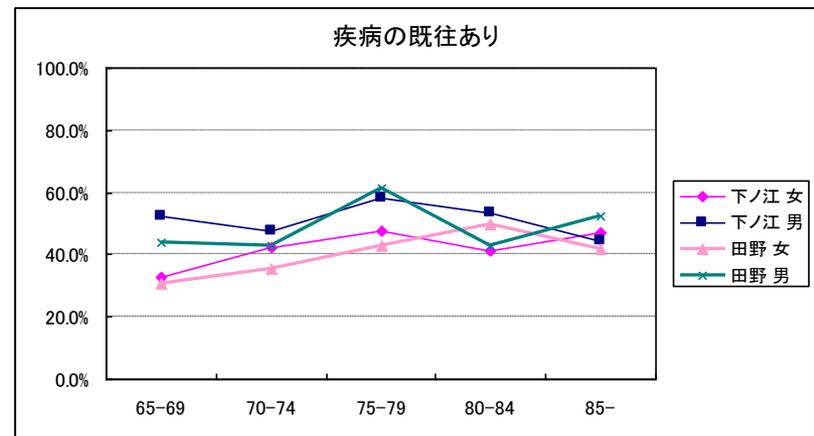
(3) バランス・筋力低下

- ・片足で立ったまま靴下をはくことができますか
- ・水で濡れたタオルや雑巾をきつく絞ることができますか（どちらかが、いいえ）



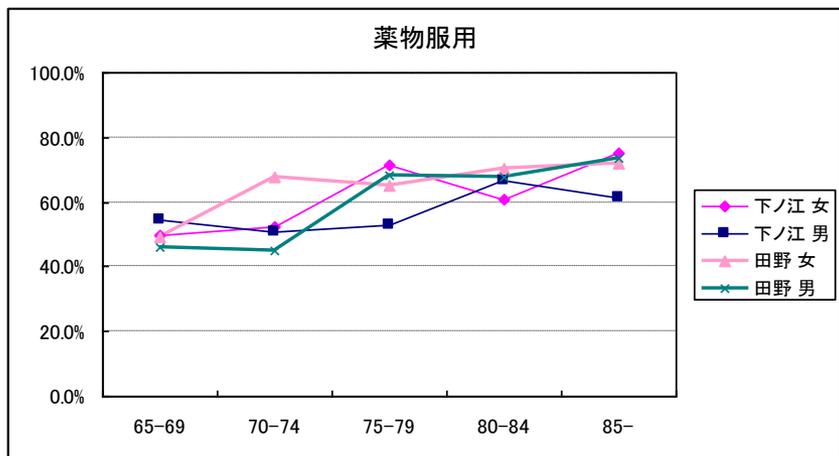
(4) 疾病の既往あり

- ・今までに脳卒中を起こしたことがありますか
- ・今までに糖尿病といわれたことがありますか（どちらかが、はい）



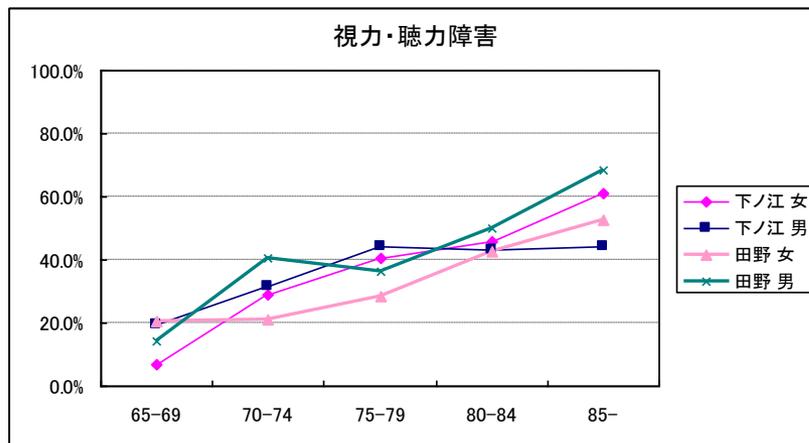
(5) 薬物服用

- ・睡眠薬、血圧の薬、精神安定剤を服用していますか (はい)



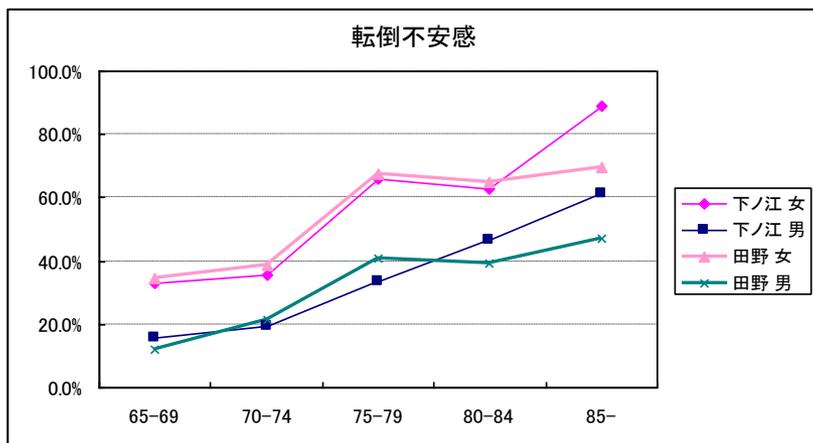
(6) 視力・聴力障害

- ・目は普通に（新聞や人の顔など）よく見えますか
- ・耳は普通に（会話など）よく聞こえますか (どちらかが、いいえ)



(7) 転倒不安感

- ・転倒に対する不安は大きいですか (はい)

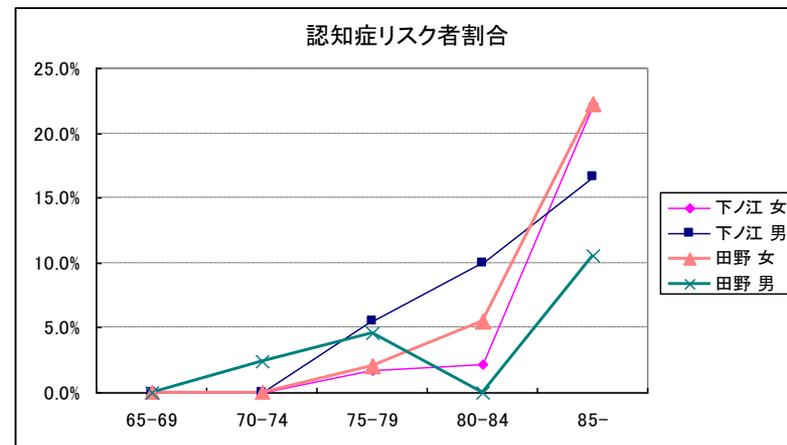
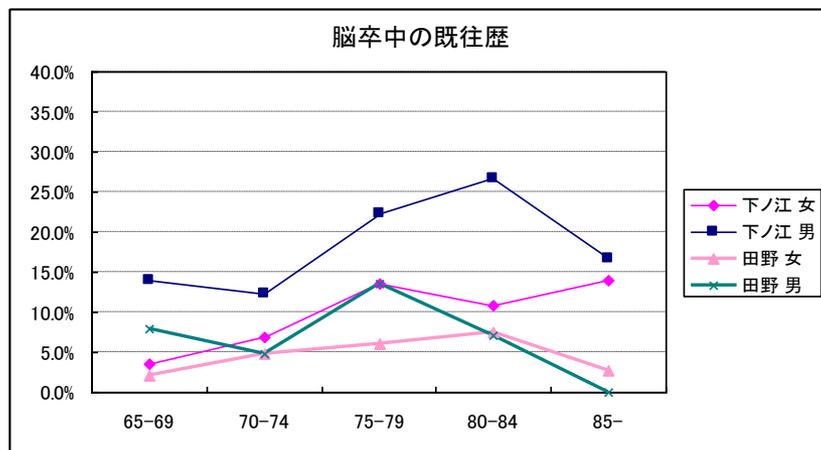
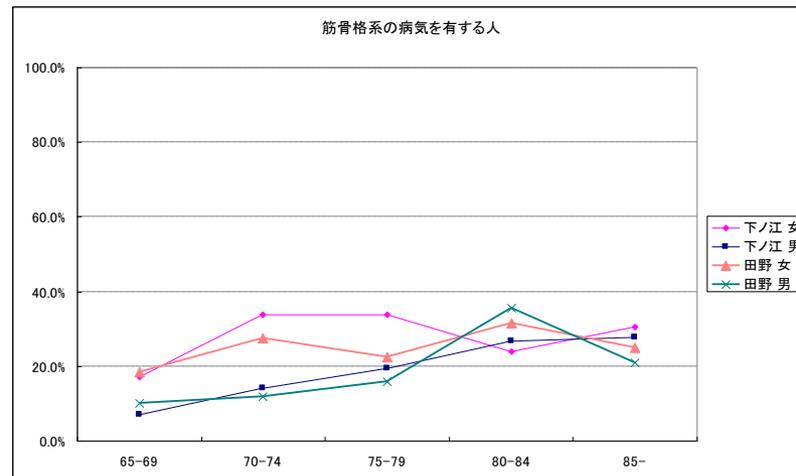
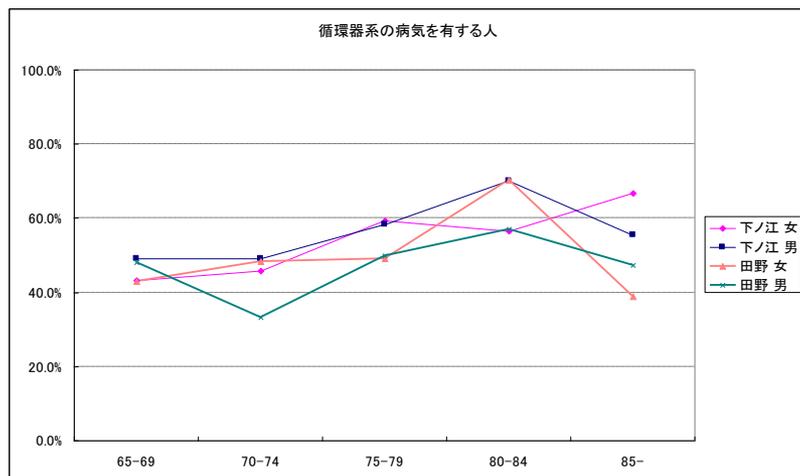


(考察)

- 一般に、転倒リスクも年齢とともに高くなるが、特徴がでたものとしては、「疫病の既往あり」については、男性が高くなっており、下ノ江地区では、高年齢になってもそれが続いている。
- 転倒不安感については、男性に比べて女性が高くなっている。
- 転倒リスクについては、琴浦町がリスクが多く見られる者の割合が低くなっており、臼杵市が見習うべき点がないか検討していきたい。

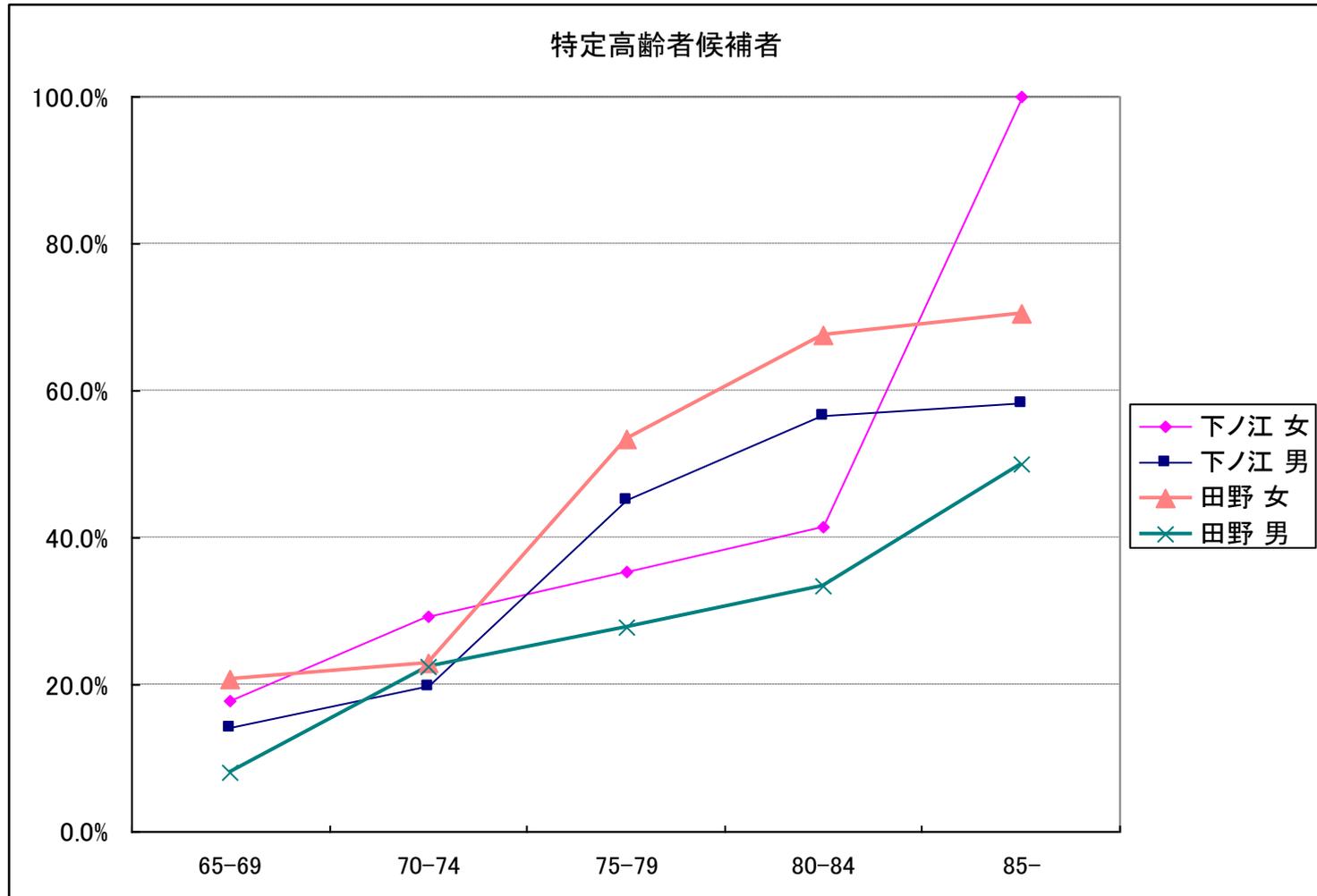
〔 分析④ 疾病状況 〕

- 臼杵市の疾病状況をみると、循環器系の疾患が妙高市や琴浦町に比べて高くなっている。中でも、下ノ江地区の男性でやや高めに出ている。
- 筋骨格系の疾病については、70歳代の女性で高くなっている。
- 脳卒中の既往歴については、下ノ江地区、特に男性の既往歴が明確に高くなっている。
- 認知症リスク者割合は、85歳以上で高くなっているが、下ノ江地区の男性は80歳代前半でも高くなっている。

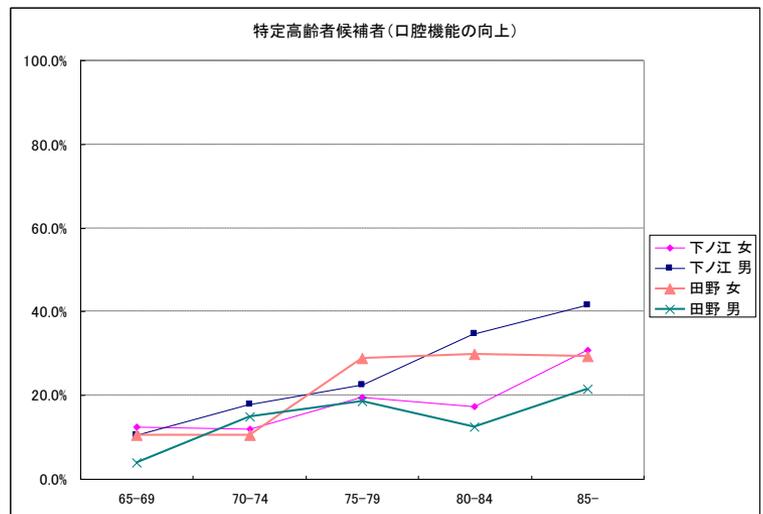
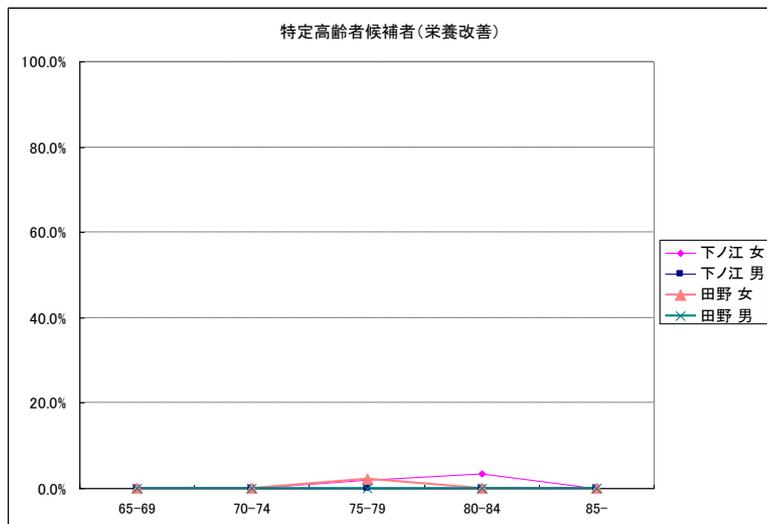
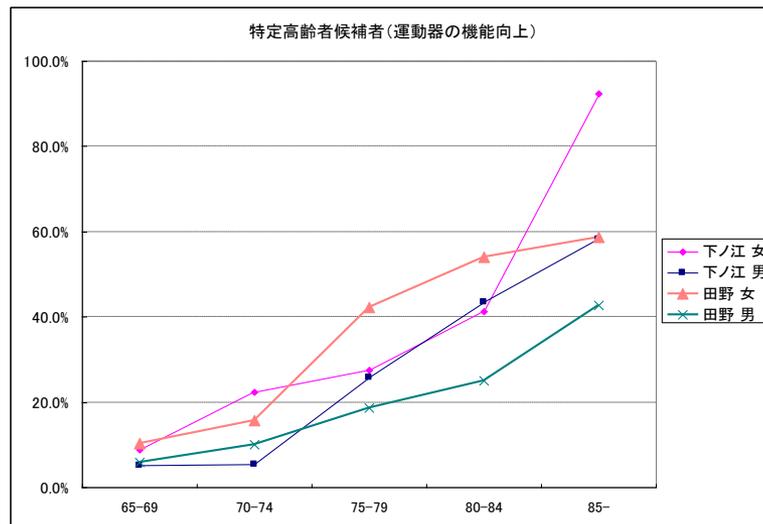
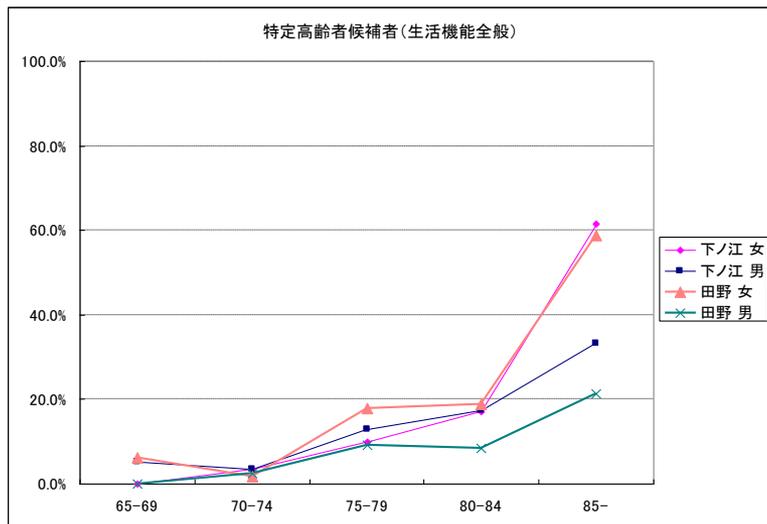


〔 分析⑤ 特定高齢者候補者割合 〕

- 今回行った調査のうち、厚生労働省の基本チェックリスト25項目を取り出し、ここから、特定高齢者の候補者を抽出した。
- 特定高齢者候補者割合は、年齢とともに高くなるが、女性よりも男性が低く、特に、田野地区で低くなっている。

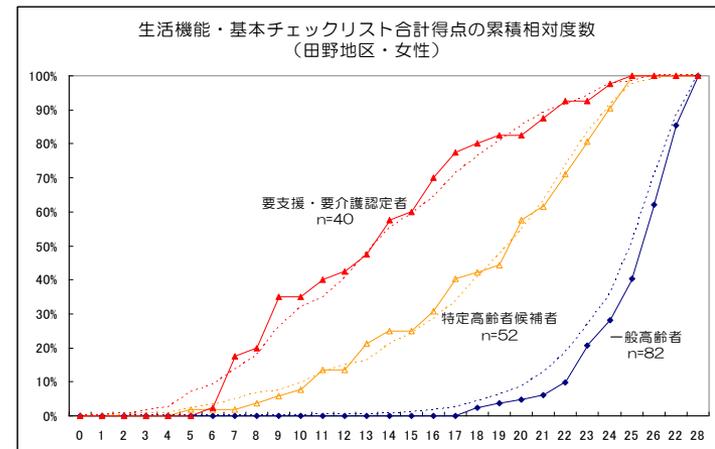
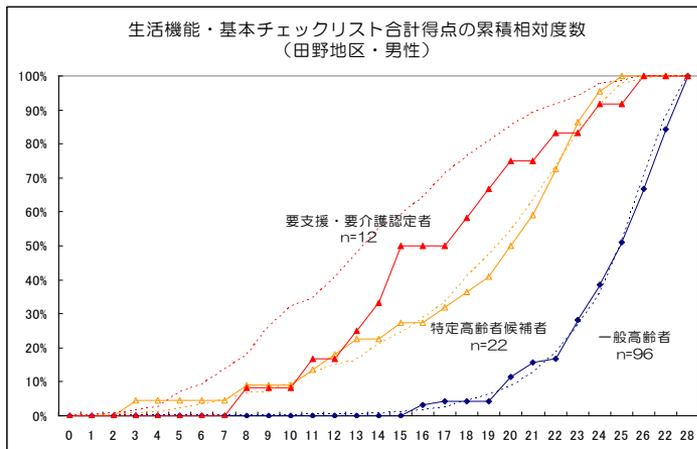
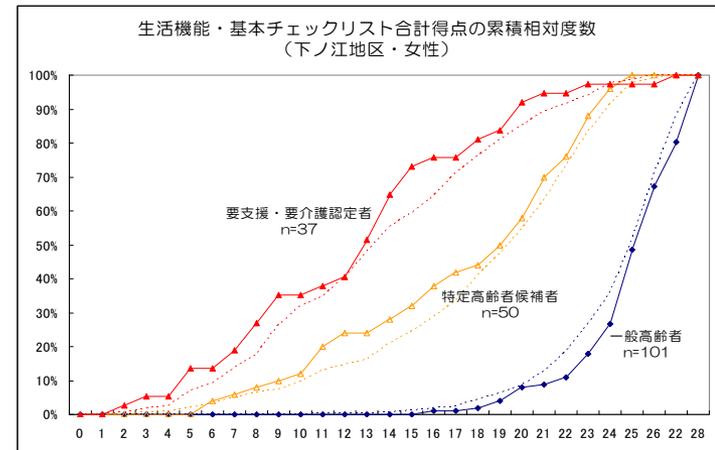
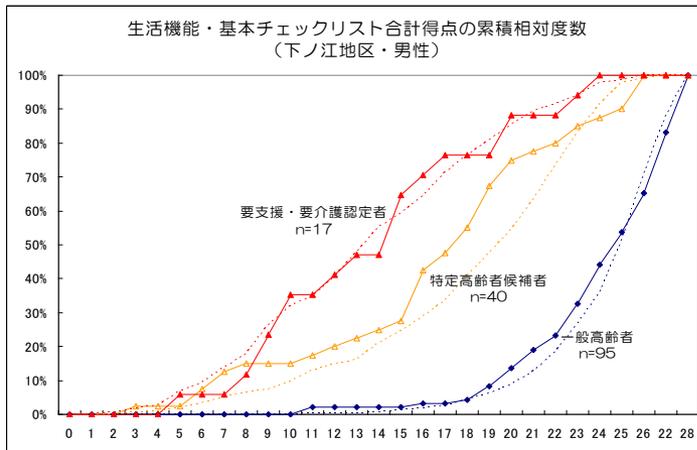


- 判定項目別の状況をみると、「運動器の機能向上」で該当する割合が高くなっている。
- 妙高市、琴浦町と比べると、「生活機能全般」と「口腔機能の向上」が高くなっている。
- いずれの判定項目でも、田野地区の男性が低くなっている。



〔 分析⑥ 生活機能・基本チェックリスト合計得点 〕

- 生活機能を示す総合的指標として、生活機能13問及びうつ予防・支援の5問を除いた基本チェックリスト20問の28問の合計得点を算出し、一般高齢者、特定高齢者候補者、要支援・要介護認定者別の相対度数分布をみた。
- 下ノ江地区では、特定高齢者候補者の点数が低めになっており、これらの者の教室への誘導を図るなどの取組みが必要と考えられる。



※ 点線のグラフは、妙高市・琴浦町・臼杵市の平均値

〔 まとめ 〕

○ 調査の実施

- ・ 設問数が多く、対象者からの不満が多いのかと心配したが、ほとんど苦情がなかった。
- ・ 臼杵市に由来からある「福祉委員」や「健康づくり推進員」という地域で見守りを行ってくれるボランティアの方々の協力が大きかった。この調査を実施することで、「普段、声かけがしにくい人に対しても声をかけるきっかけができてよかった。」という声も聞いた。
- ・ 課題としては、今回は地域のコミュニティがしっかりとしている地域を対象としたので回収率が高かったが、他の地域でも同様にいくかは疑問。それぞれの地域の実情に応じて、調査を進める必要がある。

○ 調査結果から得られたこと

- ・ 臼杵市という小さなまちでも、エリアによって高齢者の実態が大きく異なることがよくわかった。
- ・ この違いを適切に把握し、たとえば、健康教室で行うメニューについても、地域の実情に応じた内容を検討していきたい。また、この結果を住民にも知らせて、住民ニーズを拾っていきたい。
- ・ 個々の情報でみると、リスクが少ないのに要介護になっている人、リスクが多いのに認定を受けていない人が見られた。これらの者については、地域包括支援センターとも連携しながら、個別に対応していきたい。
- ・ 課題は、
 - ・ 今回得られた情報をどうやって、次の介護計画に盛り込むか。
 - ・ より適切な状況把握のためには、時系列分析もできるよう継続的な調査の実施が必要。

(参考) 「地域包括ケア推進のための地域診断に関する調査等事業報告書」からの抜粋

図1-2 生活機能低下者割合（地域別・性別・年齢階級別）

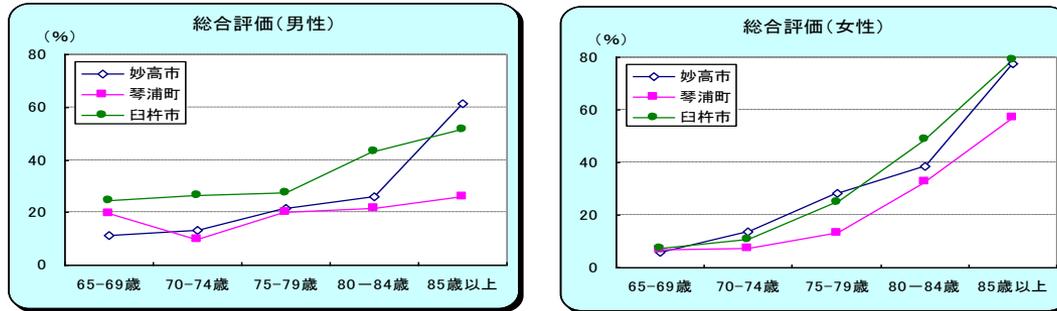


図2 外出の頻度別割合

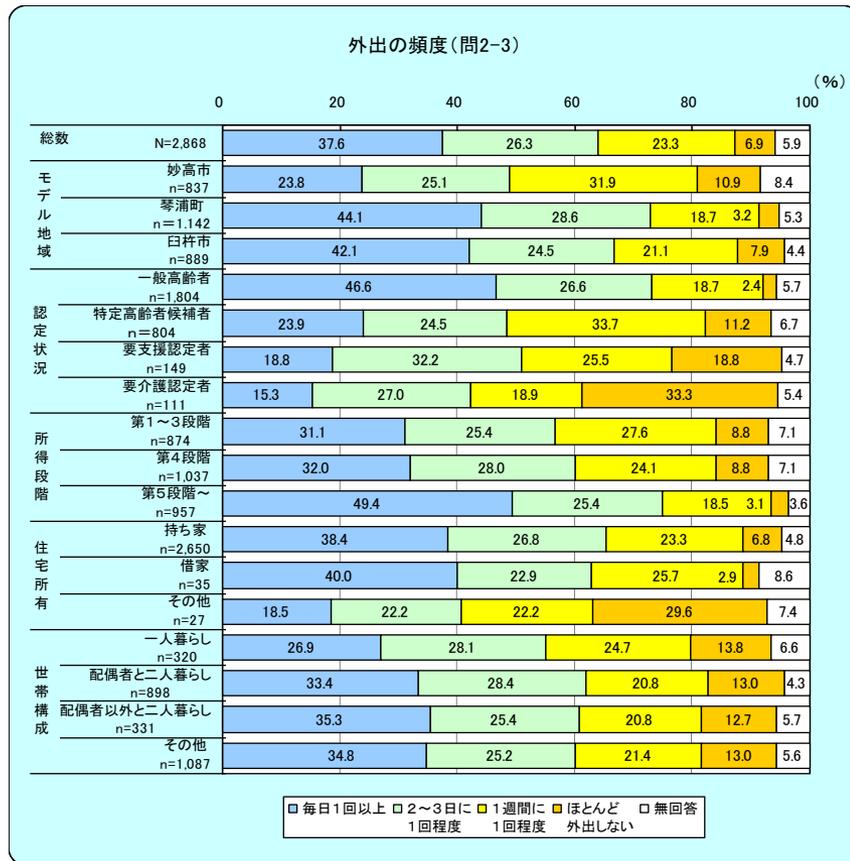


図3-1 転倒リスク者割合

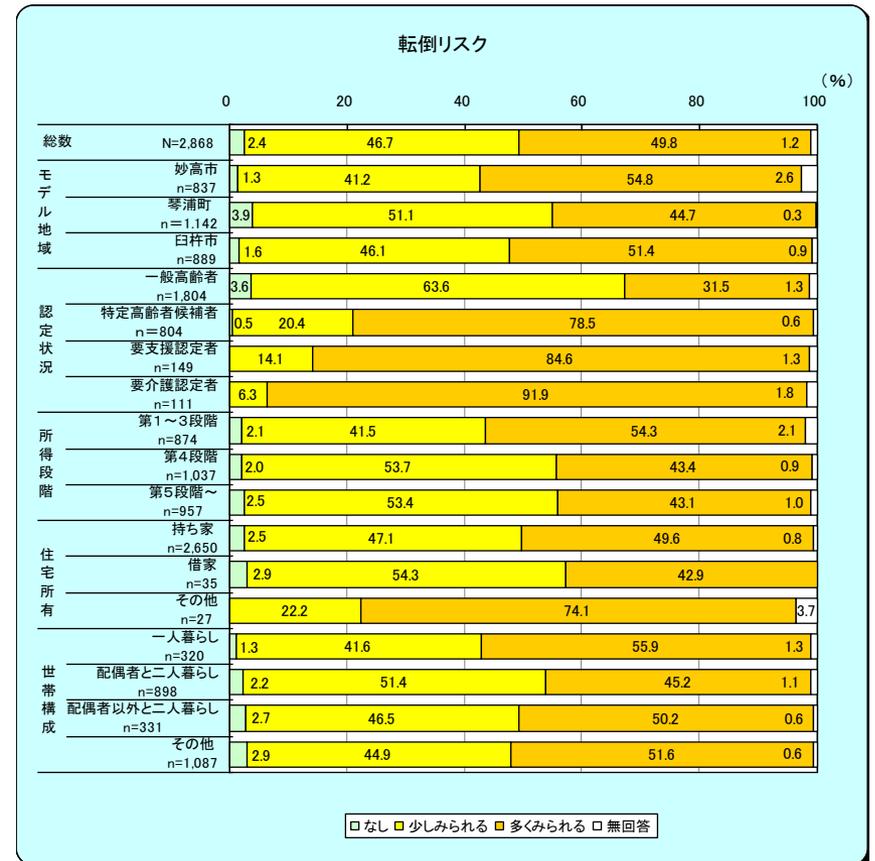


図6-3 項目別特定高齢者候補者割合（属性別）

